



## 部長先生インタビュー

高知大学医学部整形外科 池内 昌彦 教授

高知大学医学部整形外科 濱口 理沙 医員

### —— 同門会員で女性会員数は？

同門で女性会員は7人おり、みなさん臨床の第一線で活躍しています。

### —— 産休・育休・介護休暇後にでも研修コースに戻れるか？

女性に限らずこれらの休暇が必要な際には対応できるようにしています。休暇前後も、平日の夜間や土日祝の日当直免除、朝のカンファレンス免除などフレキシブルな勤務を選択できます。また、スタッフが多く、院内託児所があり、居住地から近い病院に勤務していただくこととなります。いずれの関連病院も症例は豊富で、フレキシブルな勤務であっても専門医を取得するときに困りません。

### —— メンター制度はあるか？

大学病院では専攻医教育においてメンター制をとっています。また、関連病院に勤務する場合でも、専攻医教育について大学がモニタリングしており、専門医を取得するまでに必要な症例、学会報告、論文作成などを指導する体制をとっています。また、当教室は毎年コンスタントに新入局員が複数入局しているため、学年の近いスタッフにも相談しやすい環境もあります。

### —— 専門領域の決定に本人の希望は考慮されるか？

定期的に上司と面談する機会があり、その場で将来の専門性、方向性について話し合います。もちろん本人の希望に沿った形で専門領域は決まります。女性医師は仕事と家庭の両立させるために明確に専門領域を決めていることが多いと思います。専門分野がはっきりと分かれておりスタッフの数も多い大学病院や基幹病院は、他のスタッフの協力が得られやすく、専門にも特化した診療が可能です。家庭を大事にしながらも仕事にやりがいをもって働けると思います。

### —— 遠方への赴任に家庭的な状況も考慮されるか？

家庭あつての仕事、仕事あつての家庭です。家族新年会や定期的な面談で家族の状況を把握するようにしています。もちろん家庭の状況は勤務地を提案するときに重要視しています。遠方への赴任は、子供の年齢がすべてです。小学生以降はなかなか家族揃つての転勤は難しくなってきます。

## —— 国内留学のような研修制度はあるか？

国内に限らず海外留学も可能です。大学からは毎年一人以上海外留学していますし、国内留学のチャンスは頻回にあります。若手の内向き志向が問題視されることがありますが、当教室の教室員は留学志望をもつ若手が数多くいます。希望があれば平等に留学の機会を提供するようにしています。

## —— 応援メッセージ

整形外科は外科でありながら手術以外の関わりも多く、女性医師も選択しやすいと思います。変形性関節症、関節リウマチ、骨粗鬆症など女性患者の割合が多い疾患もたくさんあり、女性整形外科医が必要とされています。当教室では一人前の整形外科医になるまで責任をもってお手伝いいたします。